

# 実践のまとめ（第4学年 国語科）

佐渡市立真野小学校

教諭 中川 史

## 1 研究テーマ

自分の最も伝えたいことを明確に書ける子どもの育成  
～書くこと領域における個別最適な学びについて～

## 2 研究テーマについて

### (1) テーマ設定の意図

学習指導要領総則（平成29年告示）では、「指導方法や指導体制の工夫改善により、個に応じた指導の充実を図ること。」「児童が各教科の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習の充実を図ること。」と明記されている。このことから、一人一人の興味・関心に応じて、自分で課題解決のプロセスを選びながら学習を進められるように授業を改善していく必要がある。また、その際には『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）』（2022）に「コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整え、これらを適切に活用した学習活動の充実を図ること。」とあるため、1人1台端末を活用していきたいと考えた。

これまでの授業では、子どもたちの興味・関心に応じた学習課題を提示していくことを意識していたが、それだけではなく、学習のプロセスや学習用具などの選択、個々に応じた課題の選択など、児童が自主的に学習を進められるような課題の提示・環境の整備が必要であると考えた。

### (2) 研究テーマに迫るために

#### ① 1人1台端末の積極的な活用

1人1台端末を日頃から積極的に活用していく。調べ学習だけではなく、家庭学習で授業のまとめを行う際や、作文を書く際、児童の意見を共有する際などに積極的に活用していくことにする。日々の授業から1人1台端末を活用していくことで、活用スキルの育成を図る。ただ、1人1台端末を強制するのではなく、児童が活用するかどうかを選べるように配慮する。

#### ② 課題提示までの導入の工夫

課題提示の際に、児童が主体的に学習を進められるように、既習事項とのずれや、生活経験が手掛かりとなる題を提示できるようにする。児童の抱く不思議さや分からなさ、あるいは到達イメージに起因する「考えていきたい」「解決していきたい」「やってみたい」と思えるような課題提示を目指す。

#### ③ 子どもが意欲的に活動を行うための環境の改善

これまでの「書くこと」の学習は、児童が最も伝えたいことを具体的に書くことができない様子が多く見られた。また、授業者としての自分の課題として、「書くテーマの設定」→「情報

収集」→「分類」→「書く活動」→「推敲」→「交流」の流れが授業の中で出来上がっており、その流れに子どもたちが乗り、こちらの意図するように授業が進む一方で、子どもたちの主体性を生かし切れていないようにも感じられた。この課題を解決するために、全国国語授業研究会・筑波大学附属小学校国語研究部（2022）は、児童が学びを創る上で以下のステップが必要であると述べている。

- ・ 自らの学びに対して目的意識、課題意識をもつこと。
- ・ 目的達成、課題解決のための学習を構想すること。
- ・ 構想した学習活動の実現のために、具体的な方法で学習を推進すること。時には、試行錯誤の結果として軌道修正すること。
- ・ 自分が困ったときに、仲間や教師と協働して、学習を継続すること。
- ・ 学習の成果を仲間に伝え、共有するために表現すること。
- ・ 自分の学びについて振り返り、次の学びにつなげて生かすこと。

以上の点をふまえ、下記の点に留意して学習が進むようにする。

- ・ 説明文を書く際に伝える相手を選び、相手意識をもたせる。
- ・ 一人一人が学習計画を立て、課題も子どもが設定できるようにする。
- ・ 児童が課題解決の際に求めるものを予想し、できる限り準備しておく。
- ・ 誰がどのようなテーマで書いているか可視化し、誰と交流したいか考えられるようにする。
- ・ 伝える相手からのフィードバックがもらえるようにする。
- ・ 振り返りの際に、次時に考えたいことややりたいことを考えるよう働きかける。

以上のことに加え、児童が学習用具や交流の相手を選択できるようにし、教師主導で学習の幅を狭めないように留意する。

### (3) 研究テーマに関わる評価

- ① 「説明文」を書く際に、「自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして」書いている児童が80%以上になる。
- ② 自分の生活経験や既習事項などから書きたいことを選び、書く材料を集めたり比較したりした後、「初め・中・終わり」の構成で書いている児童が80%以上になる。

## 3 単元と指導計画

### (1) 単元名

考えたことを書き、読みあおう 「もしものときにそなえよう」（国語4はばたき 光村）

### (2) 単元（題材）の目標

- ① 主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解することができる。【知識及び技能（1）カ】
- ② 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。【思考力・判断力・表現力等（1）ウ】

- ③ 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。【学びに向かう力、人間性等】

### (3) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。【(1)カ】	① 相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。 【(1)ア】 ② 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。【(1)ウ】	① 相手や目的を意識した表現になっているかを確認、文章を整えようとしている。 ② 書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけようとしている。

### (4) 単元の指導計画と評価計画（全 14 時間、本時 12 時間目）

次 (時数)	学習内容	学習活動	主な評価基準と方法
1 (1)	・学習計画をたてる ・テーマの決定 ・伝えたい相手の決定	◎ 1人1人の目的意識に合わせて「自然災害に対するそなえとして必要なこと・もの」のテーマで学習計画をたてていく。 ◎ 「台風・大雨・大雪・地震・津波」の中から各自がテーマを決定する。 ◎ 「誰に伝えたいか」を明確にする。	<b>態度</b> 自分の目的意識に合わせて「伝えたい相手」「テーマ」を決め、自分の学習計画を立てている。【ワークシート、タブレット】

<p>2 (3)</p> <p>・調べ学習</p>	<p>◎「自分のテーマ」「伝えたい相手」を意識して、必要な情報を集める。</p> <p>情報を集めるための方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット</li> <li>・図書資料</li> <li>・教師が用意した資料</li> <li>・社会科で使った資料</li> <li>・動画</li> <li>・防災セットなどの実物</li> <li>・ハザードマップ</li> </ul> <p>など</p> <p>情報を集めたり、分類したりする方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ノートにメモを取る</li> <li>・付箋にはってためていく</li> <li>・ミライシードの活用</li> <li>・ワードにメモをしておく</li> <li>・ワークシート</li> </ul> <p>など</p>	<p><b>思・判・表</b> 自分のテーマに合った情報を集めている。【ノート・タブレット・ワークシート】</p>	<p><b>思・判・表</b> 自分に必要な情報を取捨選択している。【タブレット、ワークシート、ノート】</p>
<p>3 (2)</p> <p>・調べた情報の比較・分類</p>	<p>◎集めた情報を比較したり・分類したりして、自分の必要な情報を取捨選択する。</p>	<p><b>思・判・表</b> 自分に必要な情報を取捨選択している。【タブレット、ワークシート、ノート】</p>	<p><b>思・判・表</b> 「初め」「中」「終わり」の役割を理解して組み立てメモを作成している。【ワークシート・タブレット】</p>
<p>4 (2)</p> <p>・組み立てメモの作成</p>	<p>◎「初め」「中」「終わり」の組み立てで書く。</p> <p>◎自分の考え→理由、または自分の考え→例の組み立てで書く。</p>	<p><b>知識・技能</b> 組み立てたメモを基に、段落の役割や接続語の使い方に気を付けて書いている。【ワークシート・タブレット】</p>	<p><b>思・判・表</b> 自分で見直したり、友達の見意見を聞いたりして自分の原稿のよいところを見つけたり、修正したりしている。【ワークシート・タブレット】</p>
<p>5 (3)</p> <p>・説明文を書く</p>	<p>◎組み立てたメモを文章に直す。</p>	<p><b>思・判・表</b> 友達の良いところや読んでの感想を伝え合う。</p>	<p><b>思・判・表</b> 友達の良いところや、読んでなるほどと思ったところなどを感想シートに書いている。【ワークシート】</p>
<p>6 (2)</p> <p>・推敲 (本時)</p>	<p>◎「初め」「中」「終わり」の役割をふまえて段落分けをしているか確認する。</p> <p>◎自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして書いているか確認する。</p>	<p>◎友達の良いところや読んでの感想を伝え合う。</p>	<p><b>思・判・表</b> 友達の良いところや、読んでなるほどと思ったところなどを感想シートに書いている。【ワークシート】</p>
<p>7 (1)</p> <p>・説明文を読み合い、交流する</p>	<p>◎友達の良いところや読んでの感想を伝え合う。</p>	<p><b>思・判・表</b> 友達の良いところや、読んでなるほどと思ったところなどを感想シートに書いている。【ワークシート】</p>	<p><b>思・判・表</b> 友達の良いところや、読んでなるほどと思ったところなどを感想シートに書いている。【ワークシート】</p>

選択できるよ  
うにする



## 4 単元と児童

### (1) 単元について

これまでに、4年2学期の「伝統工芸のよさを伝えよう」では、「初め」「中」「終わり」に分けて書くということ、自分の考えに対して、理由や例を挙げて説明することの学習を行った。本単元では、「伝統工芸のよさを伝えよう」での学習を活かし、自然災害に備える必要性を説明文にして伝える学習を行う。1人1台端末を用いて、情報収集や情報の取捨選択・分類をしたり、書く活動を行ったりできるようにしたい。ただし、タブレットを使わずに学習を進めたい児童に対して無理強いしないように留意する。また、テーマ設定や学習の進め方、学習道具なども自分で選択できるように環境を整える必要がある。

### (2) 児童の実態

ICTの活用に積極的であり、タブレットを用いて調べ学習をしたり、ミライシードでまとめたりを進んで行う。また、与えられた課題に対し、最後までやろうとし、友達と協力して課題を解決しようとする姿も見られる。一方で、自分の考えを表現することに苦手意識があり、難しいと感じると考えることをやめてしまうことがある。そのために、「読むこと」の単元では、できる限り単元を貫く言語活動として書く活動を取り入れ、「書くこと」の経験を積むようにしてきた。本単元では、「自分が伝えたい相手」に「自分の伝えたいこと」を書けるようにすることで、児童本来の主体性を生かし、学びに向かう力としたい。一方で、主体性を生かすために児童に選択の幅のみを意識してしまうと、国語科の本質的な意義である「言葉による見方・考え方」を働かせる場面のない学びになってしまう懸念もある。そのため、「初め」「中」「終わり」の役割を理解した上で分けて書くこと、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして書くことはしっかり押さえるようにする。

## 5 本時の展開（令和5年11月15日実施）

### (1) ねらい

- 自分が書いた説明文について友達との交流や自分での見直しを通し、自分の説明文のよいところや修正点に気づき、より伝わりやすい説明文になるよう推敲することができる。（思考力・判断力・表現力等）

### (2) 展開の構想

- ① 例文を読み、推敲の観点を再確認し、自分の説明文を修正する。その際に、どの観点を修正していくかを決めて、活動していく。推敲の観点は以下の通りとする。

1. 具体的な例、または理由が十分であるか。
2. 伝えたい相手を想定して、書いているか。
3. 「初め」「中」「終わり」の役割に沿って書いているか。
4. 自分の最も伝えたいことをしっかり書いているか。

- ② 実際の防災バッグや、防災についての本など、児童が必要とする情報に繋がる教材をあらかじめ用意し、自由に情報を集めることができるようにする。

(3) 展開

時間 (分)	学習活動	◎教師の働き掛け ・予想される児童の反応	□評価 ○支援 ◇留意点
導入 5	○例文を比較する。 ○例文と自分の文を比較し、各自の課題を考える。	◎例文Aと例文Bを提示し、比較する。 例文A: 主張→具体・理由で書かれている。また、段落ごとの役割をもたせ書いている。 例文B: 以上の特徴がない文。	□自分の修正点に気づき、課題を立てている
◎分かりやすい説明文にするために、○○をしよう。			
展開 30	○自分の興味関心に応じて、情報を集める。  ○自分の例文を読み直し、推敲する。	<div data-bbox="579 730 1034 1032" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>①具体例を増やすために情報を集める児童</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットで調べて、ミライシートに書きたい。</li> <li>・防災バッグをもう一回見たい。プリントに書きたい。</li> </ul> </div> <div data-bbox="579 1122 1034 1435" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>②構成を見直す児童</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちからアドバイスをもらいたいな。</li> <li>・自分で書けそう。「初め」「中」「終わり」の役割は学習シートにあったな。</li> </ul> </div> <div data-bbox="579 1458 1034 1659" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>③写真を撮るなど、より分かりやすい工夫をする児童</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災グッズの写真を撮りたい。</li> </ul> </div>	<p>○情報を集めるために自由に動いてよいとする。</p> <p>○同じテーマの人が誰か分かるように提示する。</p> <p>◇自分のテーマと違う情報を集めているなど、一見課題達成のために遠回りなことをしていても、指摘しない。</p> <p>□自分の興味関心に応じて、情報を集めている。</p> <p>○「初め」「中」「終わり」の役割や、例文など、推敲の観点を掲示しておく。</p> <p>□推敲を通して、自分の修正点を見直している。</p> <p>□自分の説明文をより分かりやすくする工夫を考えている。</p> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">思・判・表</span> 段落の役割を理解し、主張→具体例・理由の構成を理解し、説明文を書くことができる。</p> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">態度</span> 自分の文章に対する課題を見つけ、その課題解決のために情報を集めたり、推敲をしたりしている。</p>

まとめ 10	○自分が学んだことを まとめ、次回やりたいこ とを振り返りに書く。	まとめ:「初め」に自分の考えを書 いていなかったから書いた。  ふり返り:防災グッズの食べ物に ついて調べたので、次はトイレを どうするのか見てみたい。	□自分の今日できたことと、 今度の課題を見つけ、書いて いる。
-----------	---	---	---------------------------------------

#### (4) 評価

- ・ 段落の役割を理解し、主張→具体例・理由の構成を理解し、説明文を書くことができる。【思  
考力・判断力・表現力等 ワークシート、ICT機器】
- ・ 自分の文章に対する課題を見つけ、その課題解決のために情報を集めたり、推敲をしたりし  
ている。【学びに向かう態度・人間性等 ワークシート、ICT機器】

### 6 実践を振り返って

#### (1) 授業の実際 (指導の実際)

##### ① 学習計画をたてる [第1次]

まず、相手意識をもつために、どの災害  
に対する備え(テーマ)について書くか、  
誰に対して書くかを決めた。児童が選んだ  
テーマは、地震が8人、津波が5人、雷6  
人、大雪2人、その他2人であった。書く  
相手は、家族やきょうだい、友達、先生な  
どが多かった。次に、図1のワークシ  
ートを用いて、その日の自分の課題と振り返  
りを書くことにより、自分の活動に責任をも  
って計画的に行えるようにした。

図1

##### ② 調べ学習 [第2次、第3次]

主に自分が決めたテーマに沿って調べ学習を行った。この時、同じテーマの人と一緒に調べる  
児童もいれば、黙々と1人で調べている児童もいた。情報は制限せずに、大事だと思ったことを  
できるだけたくさんメモをとるように伝えた。

十分に情報を調べた後は、必要な情報を取捨選択した。いらない情報は消したり、グループ分  
けをしたりするなど、工夫して行っていた。

##### ③ 組み立てメモの作成 [第4次]

図2の形式の組み立てメモに、初め・中①・  
中②・終わりに分けて書いた。初めには「自  
分の主張」、中①・中②には「自分の主張を  
支える理由や具体例」、終わりには「まとめ」  
を書くように指導した。調べ学習で調べたこ  
とを組み立てメモに書くことにより、段落を

図2

意識して書くことができていた。

#### ④ 文章の作成〔第5次〕

組み立てメモを基に、説明文を書いた。文章を書く際は、段落の役割や接続語、「理由を書く時に使う言葉」、「例を書く時に使う言葉」などを再確認してから行った。文を書く時は一人で書いても友達と書いてもよいとしたため、友達と相談しながら書く児童が多く見られた。交流しながら書くことにより、お互いの文章を見直したり、必要な情報を共有したりしながら説明文を書くことができていた。その後、推敲前に一度提出をさせ、児童の説明文を確認すると、以下のよう  
な結果であった。

<b>&lt;推敲前&gt;</b>	
<b>構成に関わる視点</b>	
・初め・中①・中②・終わりの段落構成で書いている児童	65%
・自分の主張があり、主張を支える理由か具体例がある児童	52%
<b>その他の視点</b>	
・接続語や理由・「例を書く時に使う言葉」が段落ごとにある児童	56%

#### ⑤ 文章の推敲〔第6次〕

初めに、教師から良い例と悪い例の2つを提示し、推敲の観点を確認した。児童からは、「具体例がない」「主張と例が合っていない」「初め・中・終わりに分かれていない」などたくさん意見が挙がった。その他にも、写真と文章が合っていないことや、文末表現などの指摘もあった。推敲の観点を確認した後、自分のやりたい方法で推敲をしていた。特に多かったのが、友達と交流しながら推敲を行う児童であった。その他にも1人で考える児童もいれば、大人にアドバイスを聞きに行く児童もいた。推敲後の児童の説明文を確認すると以下のような結果に変わっていた。

<b>&lt;推敲後&gt;</b>	
<b>構成に関わる視点</b>	
・初め・中①・中②・終わりの段落構成で書いている児童	89%
・自分の主張があり、主張を支える理由か具体例がある児童	84%
<b>その他の視点</b>	
・接続語や理由・「例を書く時に使う言葉」が段落ごとにある児童	89%

#### ⑥ 交流〔第7次〕

ベネッセの授業支援ソフト「ミライシード」のムーブノートで感想を送り合う活動を行った。その際は、「分かったこと」や「なるほどと思ったこと」を書くように伝えた。このことにより、自分が伝えたかったことが伝わったかどうかを確認する機会となった。

### (2) 研究テーマに関わって

研究結果に関する評価結果は以下の通りである。

- |   |
|---|
| ① 説明文を書く際に、「自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして」書いている児童が80%以上になる。→84%                     |
| ② 自分の生活経験や既習事項などから書きたいことを選び、書く材料を集めたり比較したりした後、「初め・中・終わり」の構成で書いている児童が80%以上になる。→89% |



- ① 「自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして書いている児童」が84%となった。16%の児童が目標達成できなかった原因として以下のことが考えられる。
- ・ 情報集めの際に具体例をたくさん見つけてきたことにより、自分の最も伝えたいことが曖昧になってしまった。
  - ・ 筆者の主張として「～が大切です」などと書くとよいと指導したが、理由や具体例があるかどうかというところにばかり注目してしまった。
  - ・ 推敲の観点が多く、主張を見直すところまで目が行き届かなかった。
- ② 94%の児童が「初め・中・終わり」の「中①」「中②」に具体例、もしくは理由を書くことができていた。情報収集の時に時間をかけて興味のあることを調べたこと、組み立てメモで「初め・中・終わり」の構造を意識して書くことができたことが効果的であったと考えられる。

### (3) 今後の課題

研究テーマに関わる評価で、80%以上の児童が目標を達成することができた。児童にテーマや情報収集の仕方、書き方、推敲の仕方などを委ねたことにより、児童が意欲的に自分の文章に責任をもって書いている姿が多く見られた。具体的には、書く過程の中で、図書館資料をよく読み込む児童や、実際の防災バッグを広げながら書く児童、動画を参考にする児童など、様々な学習方法を児童自ら選択し、学習を進めていた。自由に選択させることにより、自分に合った学習方法を見つけることができていた。また、児童同士で質問したり、相談したりすることも制限なく自由に行うこととした。このことにより、同じテーマで書いている人、アドバイスをもらいたい人など、色々な人と積極的に交流している様子が見られた。毎学期、繰り返し練習することにより、書く力だけではなく、主体的に学習する力が向上するのではないかと。

今後の課題としては、児童の主体性を生かすことと、学習内容を担保することのバランスを保つことである。それぞれの単元で、身に付けなければならない「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を保障しなければならない。その中で、いかに児童の主体性を生かした実践ができるかを考えていきたい。

また、「書く」以外の領域の実践方法も考えていきたい。特に、「話す・聞く」の領域では個別最適な学びを取り入れてみたい。

#### <参考文献>

- ・「小学校学習指導要領解説 国語編」 文部科学省（2017.2）
- ・「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」 中央教育審議会（2021.1）
- ・『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」 文部科学省（2020.2）
- ・「小学校個別最適な学びと協働的な学びをつなぐ国語授業」 全国国語授業研究会（2022.7）